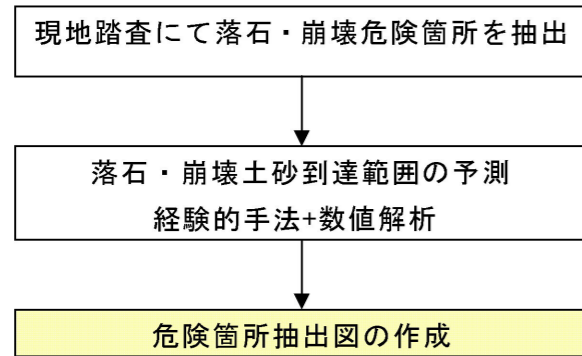


4. 対策工実施後の危険区域の検討と観察事象等の整理

4.1 立ち入り危険区域の検討

前回の検討会において、以下の方法によって地すべり地周辺における危険箇所を抽出した。



ここでは、これらの常時危険箇所に加え、今後想定される宮城県沖地震発生時ならびに豪雨時の土石流発生時に影響の及ぶ範囲について検討した。

■ 宮城県沖地震発生時（震度5強）の危険区域

1章にて検討したように、発生確率が高い宮城県沖地震と他の要因（頭部載荷・頭部衝撃力・豪雨等）が重なった場合、全体ブロックが再滑動する危険がある。したがって、地震発生時には地すべりの範囲全体が危険区域と考えられる。

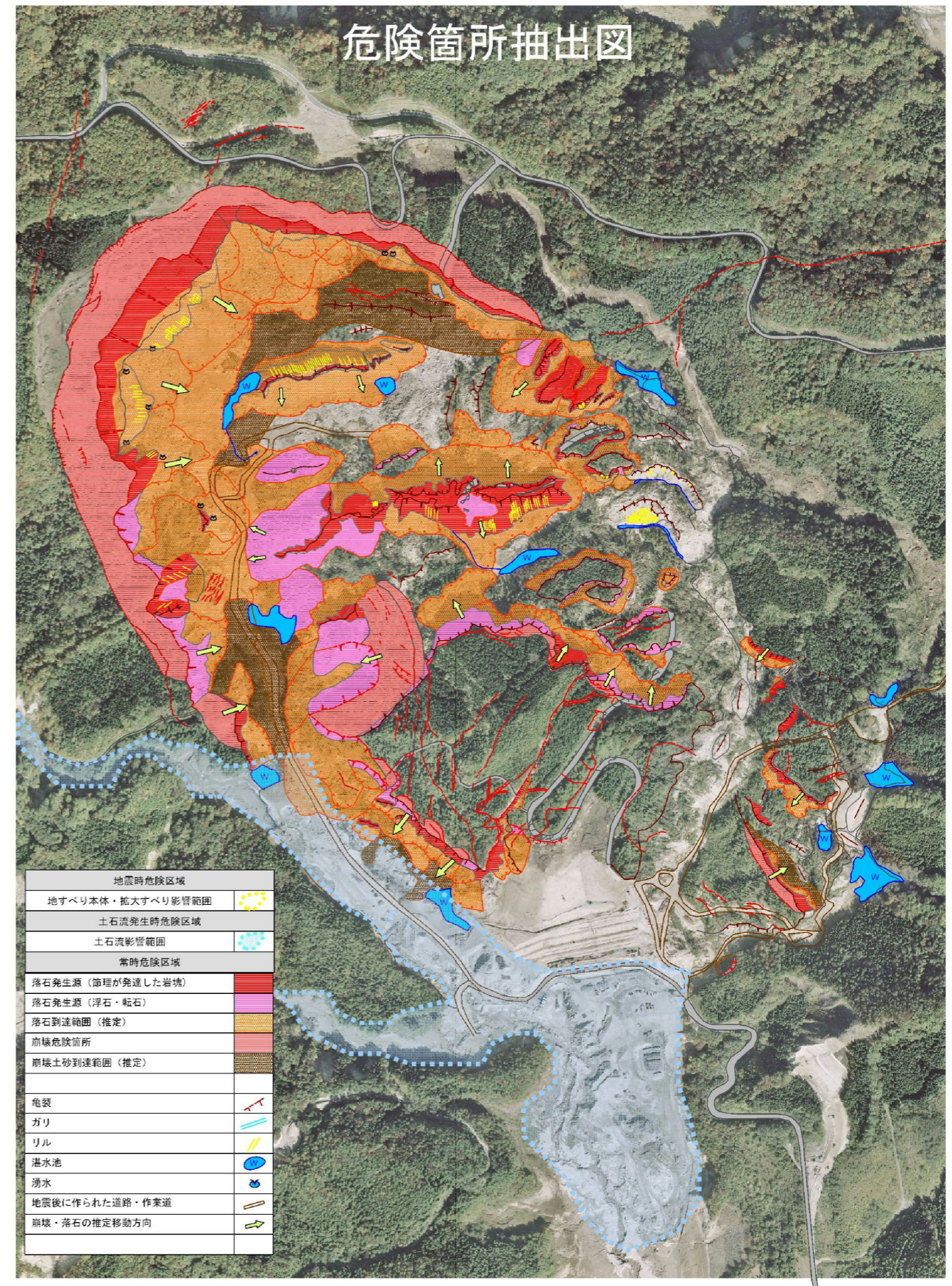
また、拡大亀裂のさらに上部にも現在のところ動きはないものの亀裂の発生が確認されており、地震時に拡大する可能性があることから、危険区域は周辺まで含まれるものと考えられる。

■ 土石流発生時の危険区域

地すべりの右側壁部を流下するヒアヒクラ沢については、現在治山ダム工・流路工等が整備中であるが、上流域には大量の不安定土砂が存在しており、今後の豪雨時や融雪時期に土石流が発生する危険性が高い。また、地すべり地内右岸の流路についても、湛水池下流のせき止め土砂が浸食されることによって土砂が流出する危険がある。

土石流は、一般に溪床勾配 2° 未満となるまでは土砂が流出する危険があるといわれている。これに対し、ヒアヒクラ沢から荒砥沢ダム間の溪床勾配は 3° 以上であることから、下流の流路沿いは土石流の危険区域とした。

これらの区域については、対策工実施後についても立ち入りに際しては危険を伴う区域と考えられる。



踏査（'09年9月）および空中写真（'09年10月15日撮影）より作成

0 100m

図 4.1.1 地震時・土石流発生時の危険区域

4.2 付け替え市道等からの景観

地すべりによって寸断された「市道荒砥沢線」は、現在地すべり地の下流側に付け替え工事が進んでおり、付け替え市道からの景観について検討した。

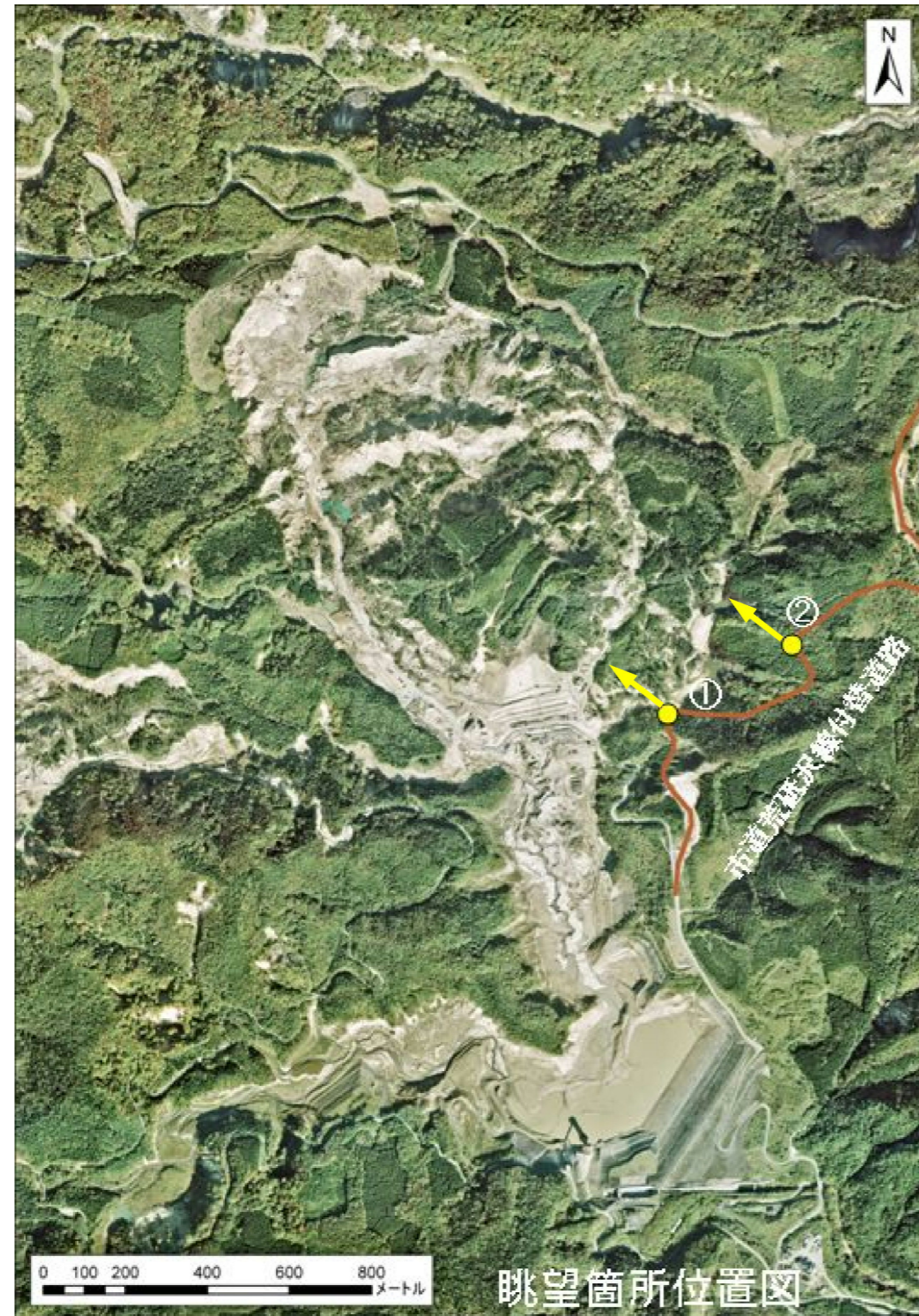


図 4.2.1 眺望箇所位置図



①地点からの眺望



②地点からの眺望